

座談会：

オフィス街の屋外広場——たばこ

を吸われる方と吸われない方が共に集う憩いの場

2012年のコンペについて

— SMOKERS' STYLE COMPETITION 2012では、例年と同様に、分煙のアイデアを募る「アイデア部門」と、さまざまな場所で具体的に実現した事例を募る「作品例部門」の2部門で作品を募集します。

2010年の「アイデア部門」では、具体的な敷地を決定し、具現化を前提としたプロポーザル形式での2段階審査が行われました。その際最優秀賞に選ばれた提案が、2012年6月に実際の空間となりました(Cafe SETSUGEKKA、本誌1207)。今回も、プロポーザル形式での2段階審査を予定しています。今回テーマになるのは、オフィス街、屋外空間での分煙のあり方についてです。既存のオフィスビルでは、ビル内部を禁煙とするケースが増え、建物周辺や、その近辺での屋外喫煙所に人が溢れている状況です。それは、たばこを吸われる方、吸われない方共によい状況とは言えず、解決が求められています。ビルの足下に広がる屋外広場は、人の往来があると共に、本来憩いの場となれるのではないのでしょうか。その場所における幅広いアイデアを求めたいと思います。具体的な敷地は、東京・日本橋エリアの一角にある敷地です(応募要項18-20頁参照)。

敷地周辺はオフィス、商業施設が建ち並び、さまざまな目的を持った人が訪れる場所です。通りを行き来する人たちが立ち寄り、たばこを吸う人と吸わない人が同じ空間を共有し、共存できる場のあり方を募集します。

19頁に記載の通り、この場所はできるだけ緑の多い場所とすること、外部なので、建築は新たに設置しないこと、人の賑わいが許容できる場であることが望ましいと考えています。ここに建つビルは、地階で地下鉄の改札と直結する上、オフィスを中心とした複合ビルです。また、このビルが建つ場所は、デパートや店舗など、商業エリアとしても知名度の高い場所ですから、多様な人の行き来があります。

審査委員の皆様には、これらをふまえて2012年度のテーマを議論していただきたいと思います。今回は、ご事情により妹島和世さんがご欠席となりました。妹島さんからのコメントは、テーマ会議の議論の最後に掲載致します。ではまず、今回の敷地について、日本橋のビルの足下にある屋外空間で

のようなことが求められるのか。それぞれのお考えを伺ってから、テーマについての議論に入りたいと思います。

日本橋という街に

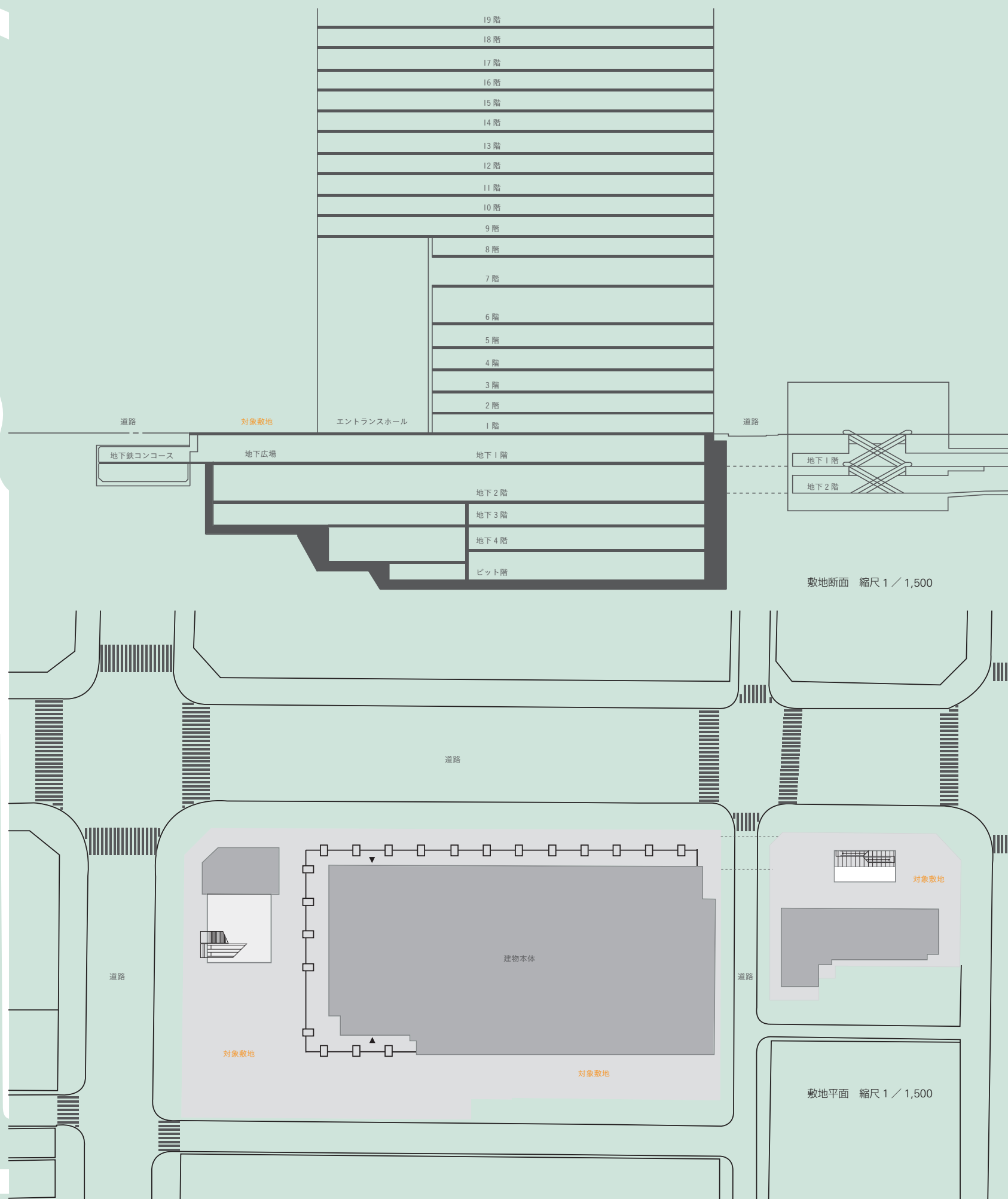
佐伯 今年もSMOKERS' STLYE COMPETITONを開催させていただくこととなりました。今回テーマとしたいのは、オフィス街エリアの、屋外空間における分煙です。2002年に千代田区が路上喫煙を禁止する条例を制定してからの10年間、屋外でたばこを吸うための環境は大きく変化しました。たばこを吸われる方にとっては、少し休憩したいと思っても、それができる場所がほとんどなくなってしまい、もしあったとしても、そこにはたくさんの人が集まり、たばこを吸われない方にとっても快適でない環境が生じています。こういった状況から、私たちは、単にたばこを吸える場所や灰皿を街の中に設置するだけではなく、そこに集う人たちの生活やシーンをもっと一体的に考えていく必要があるのではないかと考えました。このコンペの最大のテーマでもあります。場所や人を分けるのではなく、本当の意味で、たばこを吸われる方と吸われない方が共存できるような場を皆様と一緒に考えさせていただけたらと思っています。SMOKERS' STLYE COMPETITONは今回で5回目。これまで屋内をテーマにすることが多かったのですが、今回は屋外です。屋内であれば、空気のコントロールがしやすいので設備的な工夫で解決することができますが、屋外ではなかなかそういうわけにもいきません。また、屋内とは異なる制約がありますので、これまでとは違うアイデアや解決方法が出てくることを期待しています。

西沢 今回の特徴は、まず屋外空間であることですね。2009年の「自由が丘駅南口緑道(通称：グリーンストリート)」の時も屋外での分煙のアイデアが求められましたが、あの場所は完全に商業エリアで、今回の設定とはだいぶ違います。

敷地のある日本橋はオフィス街ですが、サラリーマンだけの街ではなくて、高島屋や三越などのデパートに買い物に来られる人も多いです。また通常のオフィス街のように休日になると無人化することもなく、平日も週末も人でにぎわいます。応募者の方には、そうした多様な人びとが共存する街であることを、重視していただきたいです。それからもうひとつ、日本には広場文化がないため、生き生きとした広場にならずにただの空地になりやすいという問題があります。その意味では、分煙のアイデアをきっかけに、今までにないタイプの広場をつくれるのではないかと思います。たばこを吸う・吸わない人の共存はもちろんですが、通常は相容れないさまざまな活動の共存を考えてみるのもよいでしょう。買い物客とオフィスワーカーの共存、長時間滞留する人と通り過ぎるだけの人との共存など、多様な人びとのための場



テーマ会議の様。



敷地断面 縮尺 1 / 1,500

敷地平面 縮尺 1 / 1,500

SMOKERS' STYLE COMPETITION 2012



古谷誠章

ふるや・のぶあき
(審査委員長) 1955年生まれ / 1978年早稲田大学理工学部建築学科卒業 / 1980年同大学大学院修士課程修了 / 1994年八木佐千子と共同でNASCA設立 / 現在、早稲田大学教授



妹島和世

せじま・かずよ
1956年生まれ / 1979年日本女子大学家政学部住居学科卒業 / 1981年同大学大学院修了 / 1987年妹島和世建築設計事務所設立 / 1995年～西沢立衛とSANAA設立



西沢大良

にしざわ・たいら
1964年生まれ / 1987年東京工業大学工学部建築学科卒業 / 1993年西沢大良建築設計事務所設立 / 現在、東京理科大学、東京藝術大学他 非常勤講師



六鹿正治

ろくしか・まさはる
1948年生まれ / 1971年東京工業大学工学部建築学科卒業 / 1973年同大学大学院修士課程修了 / 1978年～日本設計 / 2006年4月～同社代表取締役社長



佐藤英治

さとう・えいじ
1936年生まれ / 1963年早稲田大学理工学部建築学科卒業 / 1985年イーエスアソシエイツ設立



佐伯明

さえき・あきら
1960年生まれ / 1985年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、日本たばこ産業株式会社 / 2007年同社執行役員 たばこ事業本部 事業企画室長 / 2010年同社常務執行役員 たばこ事業本部 事業企画室長 / 2012年同社代表取締役副社長 たばこ事業本部長

所があちこちにあり、その中にたばこを吸う人にとっての憩いの場もあり、吸わない人にとっての居心地のよい場所もあるという、新しい広場の全体像を提案していただきたいです。

六鹿 中央区は、都心部のビル建設の際、壁面線を揃えて建設することを促し、街並みをつくらうとしています。大きな交差点に限っては特に緑地や空地整備をするように指導されていますから、この敷地がコーナーに面していることを考えると、街に対しての顔にもなる場所ですね。そして、西沢さんがおっしゃったように、オフィスワーカーだけをターゲットにするような店舗が多い街ではなく、古くからあるお店やデパートといった商業施設をとて大事にしている街でもあります。通常のオフィス街よりも商業の容積も大きいし、買い物客を目的としたお客さんも多い。前回までのテーマでは敷地を訪れる人は比較的限られていたのですが、今回はより多様な顔をもった街でのアイデアですので、応用問題のようですね。オフィスワーカー、買い物客、さまざまな人が集える場所をどうつくるのか、面白いと思います。仮設的なものをつくることだけでなく、広場全体をランドスケープとして考えて提案していくことにも総合的な面白さがあります。

佐藤 オフィス街であること、日本橋の伝統的な地域性、緑を残したいなど、たくさんキーワードがあると思います。それらに対して、マクロレベルで解決するのか、ミクロレベルで設備等がある程度使った解決にするのか、大掛かりなつくり込みは現実的ではないですが、設備等と空間づくりが合わさってできる可能性も考えてみてほしいです。

佐伯 私は日本橋にはあまり訪れたことがないのですが、ただ、日本橋が持つ伝統的な街に集う人たちが、働きにくる人たちがどういう場所でたばこを吸いたいかということを考えていただけるとよいのではないかなと思います。古谷先生はどのようにお考えでしょうか？

古谷 コンペをはじめてから6年を経て、人を分けてしまうのではなく、空間を共有しながら上手に煙だけを分けてたばこを吸う人と吸わない人がどう共存できるのか、このコンペではずっと考えてきました。第1回目は「パブリックスペースと分煙」というテーマでしたから、皆さんの考え方がひとまわり成熟し、改めて本質に立ち返るテーマを投げかけることにはないかと思っています。コンクリートジャングルと呼ばれる都心のオフィス街には、たばこを吸う、吸わないにかかわらず、もっと潤いのある都市の広場が必要です。都市部のビルの足下は、開放されていて人が通ったり、時々たばこが吸える喫煙場所の設置もあるようですが、人が集う場所にはほとんどありません。屋外だからこそ可能になる、たばこを吸う人、吸わない人が共に集える場所をつくる。その根本にあるのは、繰り返しになりますが「煙は分けるが人は分けられない空間を改めて考えよう」というテーマに立ち返ることになるのだと思います。さきほど西沢さんのお話に出ていましたが、2009年の「自由が丘駅南口緑道(通称:グリーンストリート)」を敷地とした際、現場を見学に行ったのですが、商店街の人たちがよかれと思って喫煙所を設けたところ、たばこを吸われる方が集まりすぎてしまい、よい結果にならなかったという話が強烈に印象に残っています。単に灰皿を置くだけではだめだったのです。今回は、屋外にあり、大気に開放されているメリットを活かしながら、人びとが場所を共有できる提案を求めると、本質的なものに戻ったのではないかなと思います。六鹿さんがおっしゃる通り、スポットとして考えるのではなく、

街区全体、歩道を含めて、連続したランドスケープとして考える中で、解答が見つかるような気がしています。

さまざまな人が集える都市の広場を

古谷 今回の敷地に対する皆さんの思いや、期待したいことなどが出揃いましたので、具体的なテーマの議論をしたいと思います。ではまず西沢さん、いかがですか？

西沢 募集のテーマとして、今までは「分煙」とか、「パブリックスペース」といったキーワードをテーマに入れてきましたが、もう少しストレートに、「新しい広場」や「新しい屋外環境」といった言い方でもよいのではないかと思います。

佐藤 そうですね。「パブリックスペース」というとなんだかドライな感じがして、少し違和感があります。何度も話に出ていますが、日本橋という場所性や歴史性を考えてみると、いまはオフィス開発が盛んですが、老舗のお店やデパートの本店があったり、そもそも商業・文化の中心であった場所です。人びとの賑わいが街をつくってきた場所ですから、そうした観点も応募者の方たちには考えていただきたい。個人的には、オフィス街というイメージが僕の世代はあまりないんです。大きな商業施設があったり、大きい道路から1本入ると老舗のお店があったり、いろいろなものがさまざまに入り交じるような場所だと思います。

六鹿 少し専門的な観点にはなりませんが、開発地の位置付けとしても、対象敷地にしようとしている場所は「広場状空地」になると思います。なので、「広場」という言葉は適していると言えます。

佐伯 今回、敷地に関しての交渉をしている間は、オフィス街で働く人たちがなかなかたばこを吸う場所がない中で、オアシスとなるようなものがつくられたらよいのではないかと考えていました。江戸時代の町人文化的な街ということと、東京駅から連続して開発されてきたオフィス街としての側面と、どちらを前面に出したらよいかなどは悩みましたが、さまざまな側面が複合されているということで、皆さんに提案をしていただいた方がよさそうですね。

古谷 過去のテーマを見返してみると、もう少し単純でもよかったのではないかなという反省もあります。第1回から西沢さんがおっしゃっている「人を分けて煙を分ける」という心を表現するには、分煙という言葉より具体的に表現するのほひとつの方法ではないでしょうか。提案のレベルが年々上がっていますのでタイトルレベルを上げていかないと(笑)。

「オフィス街の屋外広場」をメインに、「たばこを吸われる方と吸われない方が共に集う憩いの場」というフレーズをサブタイトルに掲げてはどうでしょうか。**六鹿** そうすると、何かをつくるというよりも、ランドスケープ全体をデザインするというニュアンスに変わってきますね。広場をデザインする意味が出てきてよいと思います。

佐藤 集うというのはいい言葉ですね。日本橋が持つ、江戸の下町のような特性がうまく表現されています。

古谷 では、今回のテーマは「オフィス街の屋外広場——たばこを吸われる方と吸われない方が共に集う憩いの場」でよろしいでしょうか。この場所で求められる条件は応募要項を参照していただき、応募者それぞれに考えていただきたいと思います。審査委員の皆さんからさまざまな意見がありましたように、今年は今までよりも複合的な要素が含まれる、想像力が問われるコンペになると思います。しかし、だからこそ建築家としての本分を發揮していただける場となるのではないのでしょうか。応募者皆様の発想に期待し、たくさんのご応募をお待ちしています。

(2012年8月2日、日本たばこ産業本社ビルにて 文責:本誌編集部)

妹島和世

今回のテーマは、オフィスビルの足下、屋外広場でのコンペですから、たばこを吸われる方だけではなく、吸われない方もコミュニケーションが自然に取れて、誰もが快適に時間を過ごすことができる、そのような場所の提案が求められると思います。

私は、屋内の提案の場合でも、仕切りをつくるのではなく、できるだけ大きな気積があって、そこに人が、ばらばらと自分の居場所を見つけたらよいなと思っています。都会でそれだけの広さを屋内で見つけるのは難しいことですが、今回は屋外広場ですから、そういったことが実現できる敷地ではないかと思っています。日本橋という、商業やオフィスが入り交じって、さまざまな人が行き交う場所に、素敵な広場を提案していただきたいと思います。

2012年9月

募集期間 2012年10月1日～2013年2月15日

<http://www.japan-architect.co.jp/JT/>

